東京都まちづくり実行委員会　活動報告

報告日２００７年1月２４日（水）　　報告者　ＳＥＩＹＵグループ労連　　氏　名　川本　聖

開催日　事前打ち合わせ 2006 年 10 月 12、20、30 日　実施日 2006 年 11 月 18 日（土）～19 日（日）

開催場所　八王子市追分町～東浅川町一帯　国道２０号追分交差点～高尾駅前交差点迄の甲州街道沿一帯と綾南公園一帯、及び東浅川河川公園周辺

参加者（敬称略）

事前打ち合わせ：　鶴間、寺尾、後藤、川本

18 日：まちづくり担当者　原野（小田急商業労連）、室賀（京王プラザホテル労組）、宮島（京王百貨店労組）

実行委員　寺尾（全ヤマギワ労組）、菊池（三越労組）、川本　計6名

19 日：実行委員　鶴間（京王百貨店労組）、後藤（三和労組）、佐藤（ﾏﾙｲｸﾞﾙｰﾌﾟﾕﾆｵﾝ）、田中（松坂屋労組）、川本　計５名

八王子いちょう祭り説明

今回で２７回目を迎える八王子の大型イベント。会場は甲州街道沿い約6キロ範囲内に点在しており、天候によるが2日間で３０万人近くの来場者になる。今年は 19 日が雨のため 2 日間で約 25 万人（高尾警察発表）の来場者。催し物は、通行手形を真似たオリエンテーリングや約３００人で行うよさこいソーランパレード（国道２０号を交通規制して実施）、２５０台が甲州街道約5キロを駆け抜けるクラッシクカーパレードや多摩御陵沿道・地域の公共施設、大型グランドでの屋台や遊技イベント、物産展、サークル活動発表・試写会など多種多様で、街道沿いの家屋の軒下を借りて古着を売る一般客や自宅駐車場で手作りの豚汁・おにぎり等を販売する住民もあり、回数を重ねているが既製のイベントとは少し違って地域住民による手作り感が漂うイベント。運営は、地元の有志や八王子に数多くある大学のサークルが中心となり、自治会・商工会・ロータークラブなど幅広く呼びかけメンバーを募って実行委員会を組織して運営している。また、出店者・参加者にも一定レベルの自主運営（警備・誘導・清掃）を求め、極力行政に頼らないように心がけている。

参加までの経緯

まちづくり実行委員会としては、当初、ＮＰＯの伊藤氏や協力議員の相川都議から「いちょう祭り」の話を聞き一般出店者で参加を検討していたが、イベント内容を調べる課程で実際に運営側として参加することでより内容が把握でき実行委員会として参加する意味があると判断し、伊藤氏を通じていちょう祭り実行委員会とのコンタクトを依頼し、運営スタッフとして参加することとした。

参加内容

当日は実行委員の他に加盟組織から3名の方が参加され、2日間とも終日、パレードの交通規制作業や来場・パレード演舞者の警備を担当し、終了後はいちょう祭り実行委員会のご配慮で祭り全体を視察できる時間を頂き各自で会場全体の視察もおこないました。※詳細は警備内容とタイムテーブル参照

八王子いちょう祭り警備内容とタイムテーブル

時間	18 日実施内容　来場者：17万人（高尾警察調べ）
11:30	高尾駅北口改札付近の警備指定場所に集合し、警備本部より警備内容と打合せ
12:45	警備開始、車道交通規制用のコーン設置
13:00	じょいそーらんパレードスタート、車道に入って演舞者と併走し安全を確保
15:00 頃～	昼食後、実行委員は各自で場内を視察して解散。
時間	**19 日実施内容　　来場者：8万5千人（高尾警察調べ）**
10:30 頃～	西八王子駅近くの幼稚園児パレード待機場所に集合し、警備概要説明を受け、スタートに備える。
11:30 頃～	幼稚園児に併走して警備（雨天のため2グループ中止）終了後、クラッシクカーパレードの沿道警備へ移動
13:30 頃	クラッシクカーパレード警備終了し、休憩・昼食
14:15 頃～	よさこい演舞警備へ移動し、規制用コーン設置と沿道の来場者警備・誘導を行い 15:40 頃解散

『まちづくりフォトアルバム　１８日』

１８日の警備に参加された皆さん

甲州街道の片側1車線を通行止にする作業

警備先頭から見たよさこいパレード

東浅川河川敷での自治会主催のイベント準備風景

大型グランドを使用した子供向けのイベント広場

沿道の民家前を借りて近隣住民が野菜や焼き芋を販売

『まちづくりフォトアルバム　１９日』

１９日の参加者の皆さん

幼稚園児のパレードを車道側から安全確保

クラッシクカーパレードは沿道の来場者の飛び出しに要注意

警備本部委員長の岡本氏としばし歓談

雨の中、多くの来場者を安全に誘導

高尾警察と連動しながら警備を担当

感想

当初、一般参加予定を開催2ヶ月前にスタッフ参加に変更したことで、全体像が見えにくい部分はありましたが、そこは27回も地元の有志で運営を続けきたイベントで、行政に頼るより「自分達で盛り上げる」という意識がヒシヒシと感じられ、イベントの大きさも相まって、参加者には甲斐を感じる内容でした。